

横手高等学校（定時制課程）青雲館 中期ビジョン（5か年計画）

(1) 「本校が目指す姿」

●目指す学校像（本校の存在意義、社会的役割、教育目標）

「一人ひとりの成長の支援と社会性の育成」

～深い理解と見守る温かい目、社会につなげる丁寧な指導～

① 学校の現状や課題

○現状

青雲館は、さまざまな学習歴をもつ生徒や働きながら学ぶ生徒のために、2部制（Ⅰ部、Ⅱ部）、単位制、2学期制などを取り入れて学びの場を提供している定時制高校である。入学後は少人数のクラス編成の中で、多くの生徒が元気に学校生活を送っている。また、2部制を活用した三修制を選択して、3年間での卒業を目指すことも可能である。

青雲館はさらに、中学生等を対象としたフリースクールの空間『スペース・イオよこて』の機能をもつとともに、秋田明德館高校通信制の協力校としてスクーリングを行う県南地区における定時制基幹校としても大きな役割を担っている。また、学校設定科目「コミュニケーション基礎」を開設し、発達障害等がある定時制の生徒を対象に通級による指導を行っている。

青雲館は、授業や部活動などの学校で行う教育活動に加え、インターンシップ、職場見学、ボランティア活動などの校外での諸活動を通じて、生徒の総合的な人間力を育み、将来の社会の形成者を育成する使命を果たそうと、効果的な指導法の確立に努めている。

<部活動の実績>

- H30 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・柔道部・陸上競技部出場
- R 1 全国定通総体：バドミントン部・バスケットボール部・剣道部・卓球部・柔道部・陸上部競技出場、卓球女子団体準優勝
- R 4 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上競技部出場、剣道男子個人準優勝
- R 5 全国定通総体：バドミントン部・剣道部・卓球部・陸上競技部出場、剣道男子個人準優勝

<国公立大学実績>

山形大学、福島大学、鳥取環境大学（H27） 山梨県立大学（H30）

<卒業者>

卒業年度	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
三修卒業者	16名	15名	10名	14名	16名	14名
四修卒業者	10名	5名	15名	12名	12名	14名

○課題

本校は様々な事情で学校を続けることが困難な生徒に対しても、一人ひとりが自分のペースで学習できるよう支援している。また、学び直すために転編入する生徒のことを考え、授業は基本的な内容が中心となっている。国公立大学への進学希望者もあり、進路志望に応じた指導体制の確立を目指している。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

県南地区の中学卒業生数は減少しているが、第七次高等学校総合整備計画後期計画に示されているように、多様な学びを支援する定時制課程への理解が広がれば、青雲館への教育ニーズが着実に高まると確信している。青雲館は、今後も一人ひとりを大切にして育て、社会へと結びつける使命を果たして行く必要がある。

③ スクール・ポリシー

(i) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

「自己と社会の未来を切り拓く人材」を目指し、社会で必要とされる資質・能力の育成のために、次の具体的な手立てを講じる。

1) 規律ある生活

端正な服装、爽やかな挨拶、公共ルールの遵守等も含めて、規律ある生活を通して地域や社会に信頼される人材の育成を図る。

2) 確かな学力の育成

コミュニケーション力、表現力等の多様な能力を活用する授業や活動によって、基礎基本の定着とともに各種資格・検定試験に合格できる学力を育成する。

3) 人間尊重の精神及び公共の精神の涵養

学校生活のあらゆる場面を通して、生命や人権の大切さを教え、倫理観や規範意識を涵養し、多様な価値観を認める人間尊重の精神、社会の一員として求められる公共の精神の育成を図る。

4) 自己肯定感・自己有用感の涵養

避難所開設訓練やボランティア活動など、多くの方々と協力し、社会に貢献する活動を通して、自己肯定感、自己有用感を育む。また、社会の一員としての自覚を高め、社会性、協調性、社会に貢献する心を育成する。

5) 社会性の育成

インターンシップやアルバイトなど、社会集団の一員として活動する機会を通して、謙虚な姿勢で広く社会に学ぶ心、公共に資する心を育む。

(ii) カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

全ての教育活動において「チャレンジ精神の育成」を念頭に置き、これを通して、先行き不透明な時代に挑戦し、人格の完成と進路目標達成を含めた自己実現を支援するための教育活動を展開する。

(iii) アドミッション・ポリシー（求める生徒像）

- 1 自主的、自律的に基本的な生活習慣の確立に努める生徒。
- 2 目的意識をもって、学習や資格取得に向け積極的に取り組む生徒。
- 3 特別教育活動に意欲的に取り組み、他者と協力し、努力し、自己啓発に努める生徒。

(2) 「5年間を通しての具体的な目標と取組」

① 5年間を通しての具体的な目標

- ・進路志望達成率 100%を目指す。

卒業年度	R 5	R 4	R 3	R 2	R 1	H30
就職内定率	70.0%	100%	100%	92.3%	94.1%	94.4%
進学内定率	94.0%	100%	100%	100%	90.0%	100%

- ・各種検定や資格の取得を支援し、合格率の向上を目指す。
- ・全県優勝の部活動、3つ以上を目指す。

② 目標を達成するための具体的な方法、取組等

学習指導	基礎学力の定着	学び直しとして、選択科目群に基礎講座を設ける。また、授業においても基礎基本の定着を大切にする。
	授業のUD	ユニバーサルデザイン（UD）を意識した授業を行う。学び合い、教え合い、話し合いの場面を意識した授業展開の工夫を行う。
	選択授業	クラス一斉授業のほか、興味・関心や進路希望に応じて履修できる多くの選択授業を開設する。選択前に履修説明会を行い、各科目がどのような授業かを丁寧に説明する。
	個別指導の充実	進路目標、資格取得に応じた個別指導を行う。
	資格取得の奨励	資格取得（漢字検定、英語検定、簿記実務検定、情報処理検定、ビジネス文書実務検定、ビジネス計算実務検定、危険物取扱者、等）を奨励し、難易度により卒業に必要な単位に加える。
特別活動等	LHR	新聞を活用した進路スクラップを行い、進路意識を高める。
	学校行事	学校祭、防災・避難所開設訓練、クラスマッチ、なべっこ、百人一首大会やかまくら体験等、仲間や多くの人々と協力して取り組む喜びや達成感を実感できる行事を行う。
	部活動	自信を深め、仲間の大切さを知り、人と関わることの意義深さを学ぶ機会として、部や同好会の活動を推奨する。
地域連携等	防災・避難所開設訓練	地域住民、横手市危機管理課、横手市消防署、JR横手駅、秋田大学横手分校、民間企業など多くの方々から協力をいただきながら、生徒が主体的に運営できるよう取り組む。
	ボランティア	横手市地域づくり推進課、県南NPOセンター、秋田大学横手分校等と協力して、生徒に様々なボランティア活動を紹介する。

青雲館の教育 イメージ全体図

